

平成15年度第1回理事会記録

日時：平成15年4月5日 15:30～17:45

場所：岡山 ピュアリティまきび（旧まきび会館）

出席者：

松畑（会長）、沖原（副会長・関西）、金谷（副会長・関東甲信越）、板垣（副会長・東北）、村田（理事・関西）、野田（理事・関東甲信越）、大里（理事・九州）、門田（理事・四国）、三浦（理事・中国）、渡邊（理事・中部）、加藤（理事・北海道）、深澤（紀要編集事務局長）、早坂（南東北研究大会副実行委員長・オブザーバー）、高塚（事務局長）

報告事項：

高塚事務局長から、平成14年度第2回理事会以降の学会事務局の活動について報告がなされた。

議題1 平成15年度役員について

高塚事務局長から、(資料1)に基づいて、平成15年度役員について確認がなされ、所属等における修正を行うと共に、旧役員のままになっている四国からの理事については後日ご連絡いただくことで了承された。また、前回の理事会からの懸案事項となっていた名誉会長の問題については、顧問と名誉会長との違いなどに関して疑義も出されたが、事務局提案通り、元名誉会長3名を顧問に、新たに3名の会長経験者を名誉会長に迎えることで了承された。さらに、辞意が表明されていた平野会計監査の後任については、会計監査を出すローテーションが提案され了承された後、関西から選出して後日ご連絡いただくことになった。

議題2 平成15年度地区事務局について

高塚事務局長から、(資料2)に基づいて、平成15年度の各地区事務局の確認がなされた。四国と中部について変更の旨が伝えられ、後日ご連絡いただくことになった（中部については、信州大学教育学部伊原巧研究室に移転した旨連絡があった）。

議題3 平成14年度会計・監査報告について

高塚事務局長から、(資料3)に基づいて、平成14年度会計報告がなされたが、予算と異なる主な点は、以下の通りである。

(1) 収入の部では、個人会員会費及び査読料が予想を上回ったが、賛助会員会費及び紀

要販売が予想を下回ったが、合計ではこれまで別会計としていた紀要抜刷料を収入に組み入れたこともあり、若干予算を上回った。

(2) 支出の部では、通信費のうち大会案内送付とプログラム送付費が非会員にも送付したために、また、紀要編集連絡費が紀要投稿者が多かったために、予算額を超えたが、紀要14号の送付が年度内にできなかつたために紀要送付費が予算を大きく下回った。しかし、印刷費が印刷部数の増加などにより、謝金が投稿者が多く査読謝金補助が増えたために予算を超えた。また、故池永顧問へのお花料を予備費から支出した。

続いて平野・荒木両会計監査委員からの書面での会計監査報告結果が紹介され、承認された。

議題4 第29回南東北研究大会について

板垣南東北大会実行委員長から、別資料に基づいて、第29回南東北大会について、日程、会場、準備作業日程など詳細な説明がなされ、承認された。なお、参加費は、大会要綱を含めて、4,000円(会員)、4,500円(非会員)となることが報告された。また、課題フォーラム、問題別討論会、シンポジウムの担当地区で、まだ司会者・提案者の報告がない地区については、大会案内に間に合うよう4月10日までに至急連絡するよう要請された。また、大会案内を送付するのに必要な部数を各地区毎に連絡するよう求められた。

議題5 紀要編集について

深澤紀要編集事務局長から、(資料4)に基づき、紀要委員会の報告があり、次のような提案があり、了承された。

(1) ARELE 14号への投稿論文査読の結果、59編中25編(研究論文24、実践報告1)を掲載する。なお、掲載予定の研究論文中1編は、神戸研究大会における口頭発表論文ではなかった。

(2) 会員への発送は、4月中旬以降になる予定である。

議題6 学会賞について

高塚事務局長から、(資料5)に基づいて、学会賞規程の確認がなされ、それに基づいて、深澤紀要編集事務局長から、学術論文賞候補論文について理由を付して推薦があり、了承された後、著者と論文タイトルとの紹介があった。また、8月の総会にて授賞式を行えるよう、受賞者に連絡して出席依頼をすることになった。

議題7 平成15年度予算案について

高塚事務局長から、(資料6)に基づいて、平成15年度予算案の提案があり、承認された。昨年度からの主な変更点は、以下の通り。

(1) 収入の部では、紀要抜刷料のカテゴリーを新設した。

(2) 支出の部については、学会賞運営費を新設した。これは、学会賞賞金と運営に要する経費である。また、通信費、印刷費、謝金を増額した。通信費の増額は、紀要14号、15号の送付に対応するため、謝金の増額は、紀要編集と事務局謝金の増額による。また、紀要12号までの販売謝金(広島)は廃止された。

議題8 第30回研究大会について

第30回研究大会担当予定の中部地区渡邊理事から、別資料に基づき、日程と概要が説明され承認された。

議題9 その他

(1) 神戸研究大会余剰金の扱いについて

高塚事務局長から、神戸大会事務局から、神戸研究大会で余剰金が生じたので、返納したい旨の申し出を受けたが、研究大会における余剰金は研究大会事務局で使用願うのがよいとする提案がなされ、承認された。なお、研究大会において赤字が生じた場合には、会計報告に基づいて全国事務局としてできる範囲内で協力することが確認された。

(2) 文部科学省からの英語教員研修講師推薦依頼について

松畑会長から、文部科学省から英語教員研修の講師候補者を学会として推薦して欲しい旨の連絡を受けたが、学会としては特定の会員を推薦することはせず、会員名簿を提出するだけにとどめ、文部科学省で人選してもらうよう、各地区事務局の了解を求めた後に対処した旨報告があった。

(3) 課題研究フォーラムの出版について

高塚事務局長から、2年間の研究が終了した課題研究について出版をするのかという問い合わせを受けたが、紀要投稿も可能なので、当面は出版はしない旨の提案があり、了承された。

(4) 全国会費の徴収方法について

金谷副会長(関東甲信越)から、全国との会計年度などの違いから、地区で全国の会費を徴収し一括納入することには問題が生じているので、できれば全国会費は全国事務局で

直接徴収する方式に変更することを検討して欲しい旨の要望が出され、可能性を検討することになった。

平成15年度第2回理事会記録

日時：平成15年8月8日 17:15～18:45

場所：仙台 江陽グランドホテル

出席者：

堀口（顧問）、青木（名誉会長）、吉田（名誉会長）、松畑（会長）、沖原（副会長・関西）、金谷（副会長・関東甲信越）、板垣（副会長・東北）、村田（理事・関西）、野田（理事・関東甲信越）、大里（理事・九州）、藤井（理事・四国）、三浦（理事・中国）、渡邊（理事・中部）、千々岩（理事・東北）、加藤（理事・北海道）、小篠（紀要編集委員長）・深澤（紀要編集事務局長）、早坂（南東北研究大会副実行委員長・オブザーバー）、佐々木（南東北研究大会実行委員・オブザーバー）、伊原（長野研究大会・オブザーバー）、高塚（事務局長）

報告事項：

高塚事務局長から、平成15年度第1回理事会以降の学会事務局の活動について報告がなされた。

議題1 第29回南東北研究大会について

板垣第29回南東北研究大会事務局長から、資料に基づいて、大会の準備状況等について報告がなされた。その際、現金の管理上、大会参加費も事前振込みにすることが望ましいのではないかと提案がなされ、次回大会実行委員会で導入するかどうかを検討することになった。

議題2 総会での議題について

高塚事務局長から、資料に基づいて、第29回総会の議題について提案がなされ、承認された。

議題3 第30回長野研究大会について

渡邊理事から、資料に基づいて、第30回長野研究大会について、開催日時・会場、委員会構成、および今後の予定などについて説明がなされ、承認された。なお、課題研究フォーラム等の題目については、殆どの地区がまだ検討しておらず、全国事務局が中心となって候補題目を出して調整・決定していくことになった。

議題4 紀要編集について

小篠紀要編集委員長から、平成15年度第2回紀要編集委員会における審議事項について報告があり、承認された。

(1) ARELE 第15号の執筆申し込みについて

今回からすべてメールで執筆申し込みを行い、学会ホームページから申込用フォーマットを入手することとした。

(2) ARELE 第15号の執筆要領について

執筆要領に以下の3点を追加する。

- ・共同執筆の場合、執筆者全員の所属単位学会名を明記することとした。
- ・同一内容・趣旨の論文を複数本投稿することは認めないこととした。
- ・査読用原稿の中で注や **acknowledgment** に本人を特定することが可能と思われる記述（個人名・機関名）および科学研究費による研究であることは載せないこととした。

(3) 編集委員について

早田武四郎先生（元和歌山大）と滝口正史先生（聖徳大学）が交代希望を出されているのでこれを承認し、各地区会長に後任の推薦をお願いすることとした。その他の委員は留任することとした。

(4) 学会賞の推薦について

今年同様に最高得点者を学会賞に推薦することとした。2名までの推薦とし、同点だった場合は、3人の査読委員間の得点のばらつきの最も少ないものとする事とした。ただし、学会賞を推薦しないこともありうる事とした。

(5) 査読委員について

就任時と現在の所属先の単位地区学会が異なる場合には、現在の所属に一本化することとした。委員の追加が必要となった場合は、地区会長に後任の推薦をお願いすることとした。

(6) 紀要編集計画について

2004年3月末刊行を目指した編集計画を了承した。

(7) 副委員長の推薦について

編集委員会として判断を必要とする場合に備えて、以下の2名の副委員長をおくこととした。

門田 幹夫（高知工科大学）

大下 邦幸（福井大学）

議題 5 その他

(1) 日本学術会議委員の選出について

高塚事務局長から、日本学術会議からの第 19 期第 1 部、語学・文学研究連絡委員会の委員候補者 1 名の推薦依頼に基づき、小篠紀要編集委員長を推薦したい旨提案があり承認された。

(2) 次回理事会について

次回理事会は、平成 16 年 4 月 3 日（土）に開催することが承認された。その際、全国と地区との円滑な事務連絡体制が取れるよう、各地区の事務局長にも幹事として参加していただくことになった。また、それに伴い、より多くの参加が得られるよう、東京で開催することとなった。

(3) 学会賞賞金について

金谷理事より、学会賞賞金額の再検討について意見が出されたが、前回理事会での決定事項でもあり、新たに教育実践賞を加えるときなどに見直すことになった。また、2 名受賞の時には、各 10 万円の賞金とすることが確認された。